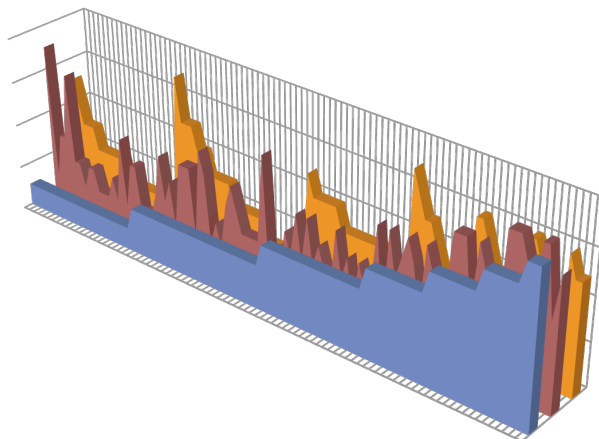


九州国際大学法学部における ジェネリック・スキルの評価と育成

九州国際大学法学部
教授 山本 啓一



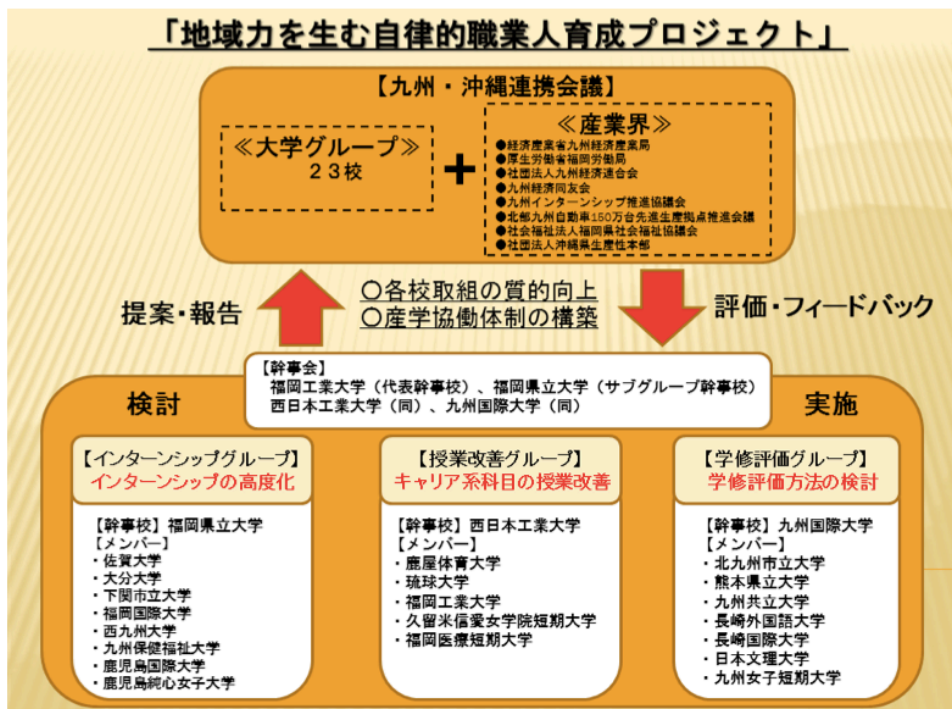
事例紹介の概要

1. ジェネリック・スキルと人材ニーズ
 - ・ 産業界GP人材ニーズ調査
 - ・ 目標人材とジェネリック・スキルの関係
2. 九州国際大学法学部のPROGテスト分析
 - ・ 3年間を通じたリテラシースコアの変化
 - ・ 他の評価指標との関連性
3. ジェネリック・スキルを育成する方法
 - 事例①（リテラシー編）入門演習
 - 事例②（リテラシー編）文章表現科目
 - 事例③（コンピテンシー編）社会実習
 - 事例④（FD編）オフキャンパス研修
 - 事例⑤（専門教育編）基礎セミナー（予定）

1. ジェネリック・スキルと人材ニーズ

- ▶ 「ジェネリック・スキル」は、知識基盤社会において必要なキー・コンピテンシーであると同時に、現在の日本の産業界が大学生に求める能力でもある。

九州・沖縄地区産業界ニーズGP



九州・沖縄地域の人材ニーズについて リアセックによる人材ニーズ調査 (221社) より

- ・【新卒採用のポイント】従業員数が多い企業ほど、「筆記などの適性検査」「一般教養・常識」「基礎学力」を重視している。
- ・【新卒採用の重視点】50～100名規模の会社を中心に「**小論文・作文**」を課す企業が九州では多い（増えている）。
- ・【大学生に求める能力】コンピテンシーのうち、特に「**対人基礎力**」が求められている。従業員数が多い企業ほど（+公務員）、「コミュニケーション能力」「自主性」「チームワーク」が重視される。
- ・【大学生に求める能力】「学び続ける姿勢」と「成長」はどの業種でも重視される（＝「現時点の能力」だけではなく「成長可能性」を求めている）。

→九州・沖縄地区の産業界の大半は、「コミュニケーション能力の育成」「チームワーク・リーダーシップの育成」「論理的思考力・問題解決力の育成」「倫理観や自己管理能力の育成」を求めている。

→特定スキルよりも圧倒的に**ジェネリック・スキル（コンピテンシー & リテラシー）**が求められている。

九国大法学部の目標人材＝「警察官」とは何か？

警察官採用試験は、なぜ、長年「①教養試験」「②小論文」「③面接」「④体力試験」で構成されているのか？

- ① 警察組織の「幅の広い仕事（例：交番→捜査→防犯→総務→市町村へ出向→etc.）」に対応できるためには、**「幅広い知識」を獲得し続けるための「学習能力(フレキシビリティ・訓練可能性)」**が不可欠。
- ② 警察官にとっての最重要能力は「**書類作成能力**」
- ③ 警察官としての「適性」…「やる気」「**倫理観**」「**自己管理能力**」
- ④ 身体能力は警察官にとって必須の条件

+α 新たな課題（検挙から防犯へ）…**協働力**、**課題解決力**等

→問われているのは今も昔も「**ジェネリック・スキル**」

ジェネリック・スキル～学士力と就業力をつなぐ概念

中教審学士力答申

①知識・理解	多文化・異文化に関する知識の理解、人類の文化・社会と自然に関する知識の理解
②汎用的技能	コミュニケーションスキル・数量的スキル・情報リテラシー・論理的思考力・問題解決力
③態度・志向性	自己管理能力・チームワーク・リーダーシップ・倫理観・市民としての社会的責任・生涯学習力
④統合的な学習経験と創造的思考力	自らが立てた新たな課題を解決する能力

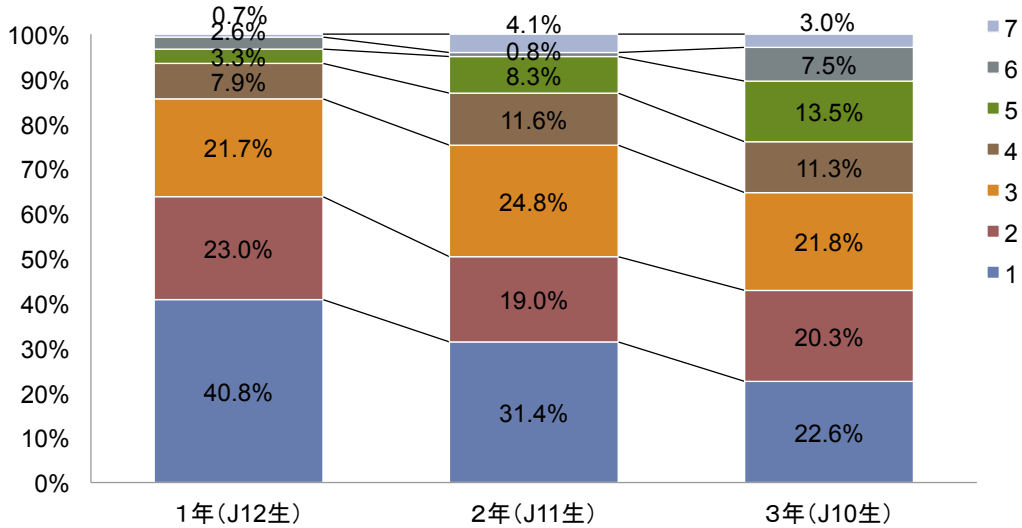
- 「入り口の質保証」論…ジェネリック・スキルは、かつては（進学率20%台）、受験勉強を通じて、あるいは大学教育・大学生活を通じて「副産物」として育成された→学歴（偏差値）によってジェネリック・スキルがある程度予測可能。
- 「出口の質保証」論…現在の（特にユニバーサル）大学では、ジェネリック・スキルを持たない学生が入学し、そのまま卒業する可能性がある→正課教育を通じてジェネリック・スキルを「意識的に」育成することが必要。

2. 九州国際大学法学部の PROGテスト分析

- リテラシー（課題解決力）は大学3年間で変動する。このスキルは教育に先立つ本人の資質（≡「地頭」）というよりも、教育の成果として位置づけられるべきである。
- PROGテストを大学・学部の評価制度全体と関連づけ、評価指標を改善するための取組を行うことが重要である。

2012年 リテラシーテスト結果

※学年名称は2012年当時

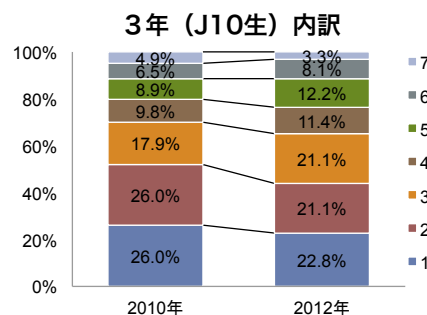
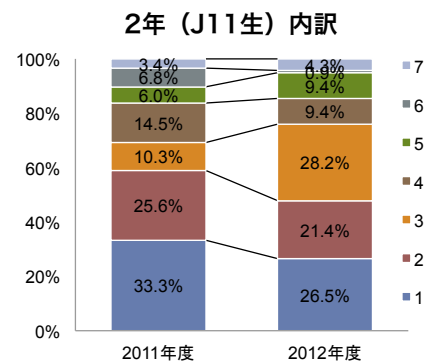


- 3年前にPROGテスト試行バージョンを受験した際に、コンピテンシーは平均を超えていたため、翌年からリテラシーテストのみを受験。
- 2012年は421名（1年153名、2年134名、133名）が受験。
- 学年が上がるにつれてリテラシースコアが上昇しているように見える。

リテラシー・スコアの推移①

	人数 (2012)	継続 受験 者数	継続受験者のうち		
			2010 平均	2011 平均	2012 平均
1年生 (J12生)	174	152	-	-	2.20
2年生 (J11生)	183	117	-	2.68	2.73
3年生 (J10生)	172	123	2.86	3.15	3.11

- 1年次の平均値が年々下がっている。
- 2年生…ランク3が増加。それ以外がほぼ減少＝下位は上昇したが、上位も下降。
- 3年生…最上位層以外は全体的に向上。ただし、2年から3年で平均値が下降（誤差の範囲内?）。

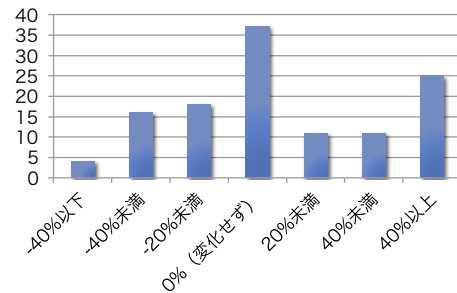


リテラシー・スコアの推移②

	人数 (2012)	継続 受験者 数	継続受験者のうち		
			上昇	変化せ ず	下降
1年生 (J12生)	174	152	-	-	-
2年生 (J11生)	183	117	42	38	37
3年生 (J10生)	172	123	47	38	38

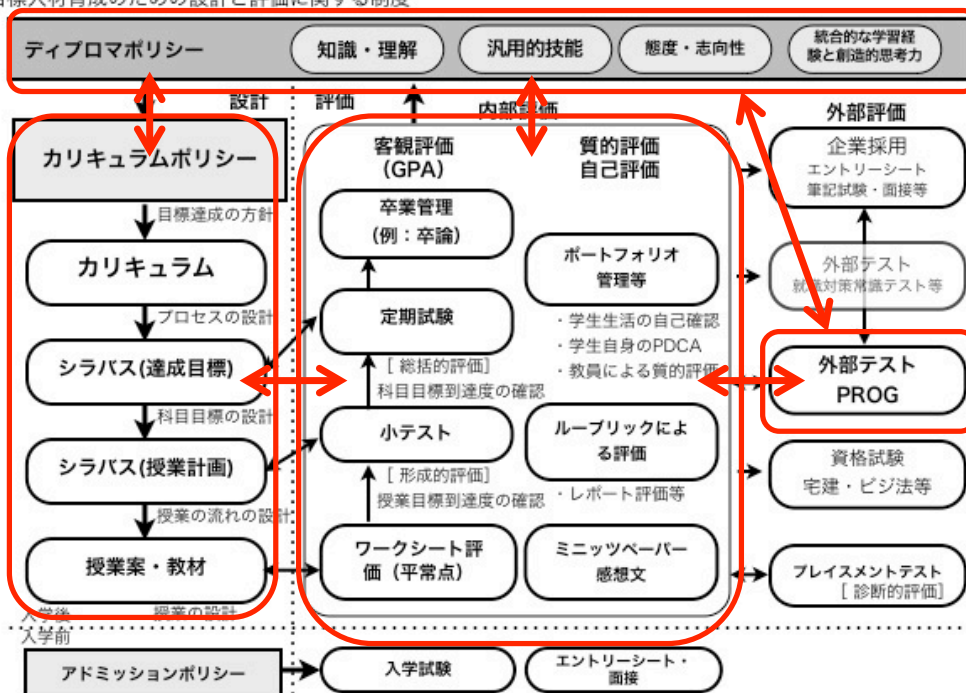
年平均成長率= (2012年/2010年)
~ {1/(2012-2010)} - 1

3年生 (J10生) の3年間の成長率



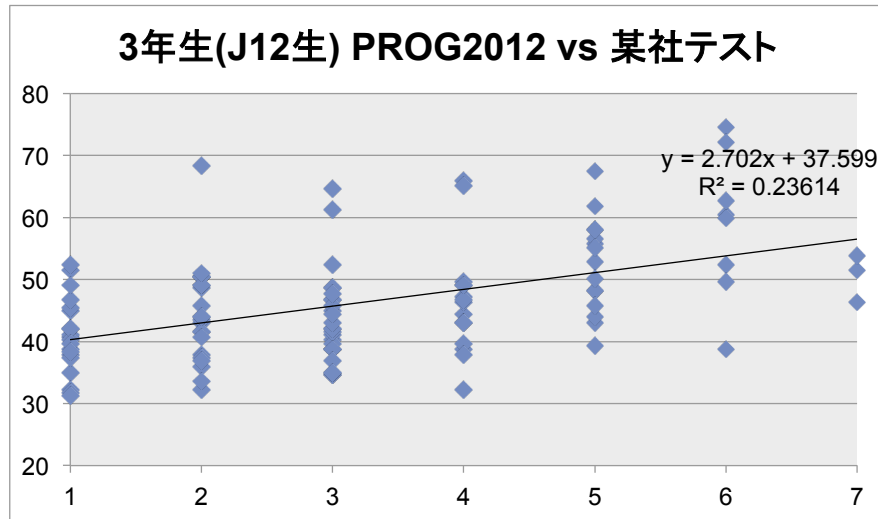
- リテラシースコアの「上昇層」「不変層」「下降層」の3層が存在する。
- リテラシー成長率の差は？ 「情報収集力」は多くの学生が伸びているが、「課題発見力」「構想力」が二極化している。
- 原因は？ 1年から3年の間に複数回同じゼミを選んでいる学生（一貫型）と、毎年ゼミを変更している学生（非一貫型）を比較すると、一貫型の方が成長率が高い。ただし6%程度の影響しかない。
- PROGテスト受験の態度・姿勢のバラつきが影響している可能性も考えられる。今年度は、受験時の条件を一定にして（一教室一斉受験）実施する予定。

目標人材育成のための設計と評価に関する制度



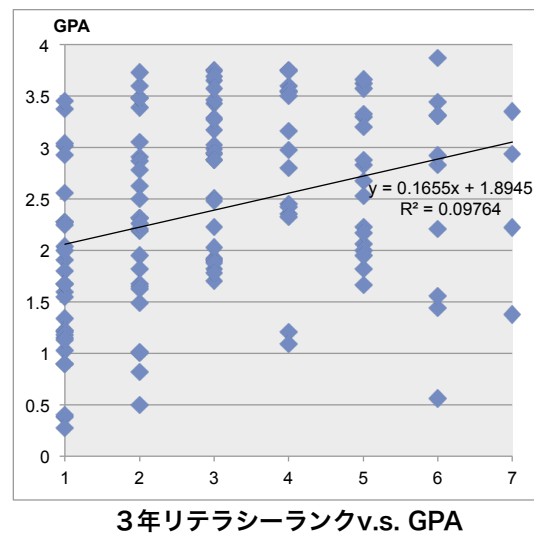
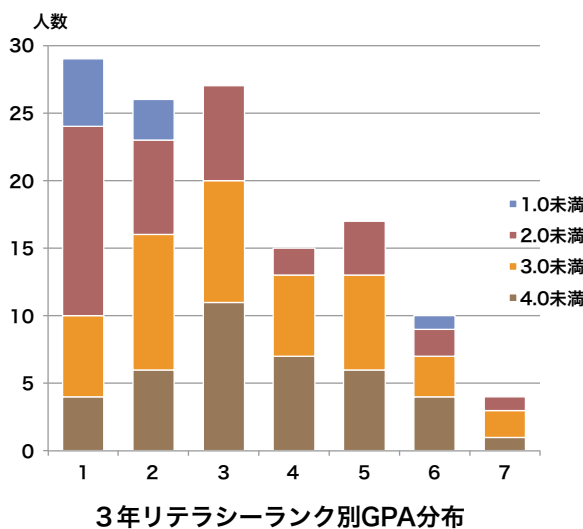
- 1) PROGテストを評価制度全体の中に位置づける…「外部の形成的アセスメント」
- 2) 内外の評価制度同士の相互関連性をもたせる→DPの見直し
- 3) 教育改革…カリキュラム、シラバス、科目、教材、授業方法、定期試験、FD

外部評価同士の関連性について



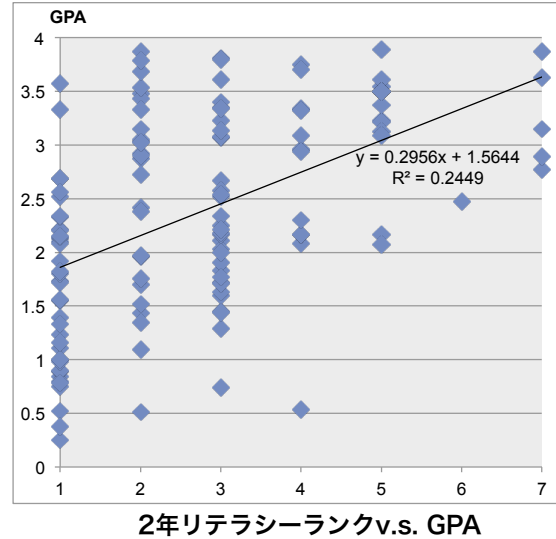
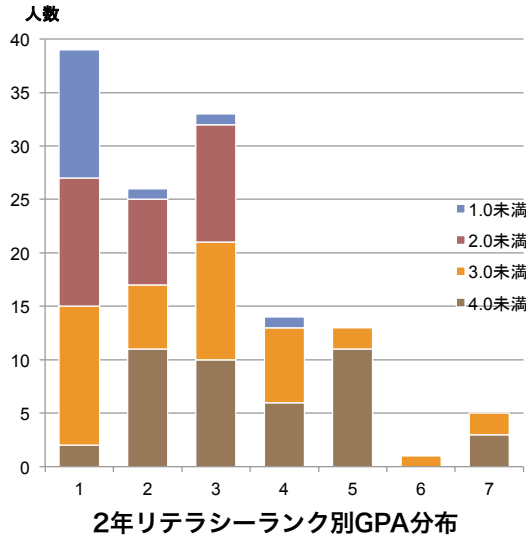
- 某社テストの内容…一般常識：社会科学・人文科学・自然科学・時事 基礎学力：英語運用・日本語理解・判断推理 … 「就職試験問題として出題される一般常識や能力・性格の適性検査問題などに本番と同様の形式で…」
- PROGテストは「就業力評価」として活用できる可能性がある。

3年生(J10生) GPA v.s. PROGリテ



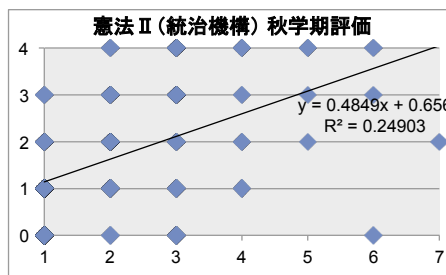
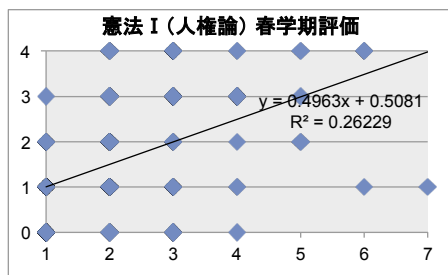
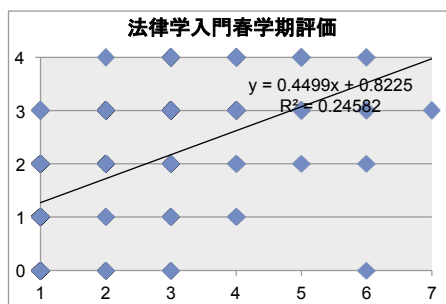
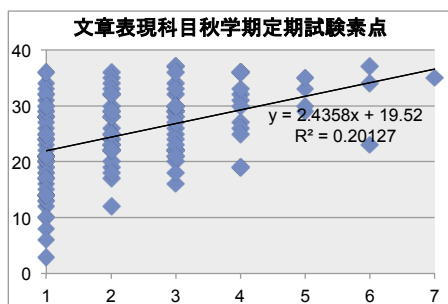
- PROGリテラシーランクとGPAがほとんど相関していない…新卒採用にあたって企業が学生の「大学の成績」をほとんど考慮しない理由。

2年生(J12生) GPA v.s. PROGリテ



- リテラシースコアの高い学生は、ほぼGPAも高い。他方、GPAが高くてもリテスコアが高いとはいえない。GPAが低い学生はリテスコアも低い。
- GPAとPROGテストの相関は高まりつつあるが、リテラシー育成は未だ不十分である。

1年生(J12生)対象科目v.s. PROGリテ



- PROGリテラシースコアと関連性のある科目が年々増加…初年次科目担当教員を中心に、PROGの「リテラシー」の概念に対する理解が広がっている。

3. ジェネリック・スキルを育成する方法

- 九国大法学部では、初年次科目を中心に、PROGテストのリテラシーとコンピテンシーの観点達成目標や評価基準として、いくつかの科目に組み込みつつある。
- (参考) 山本啓一「学力に課題を抱える大学における就業力の育成と課題—九州国際大学法学部の事例から」『日本労働研究雑誌』第629号、平成24年12月。

リテラシー・サイクル…課題解決のプロセス



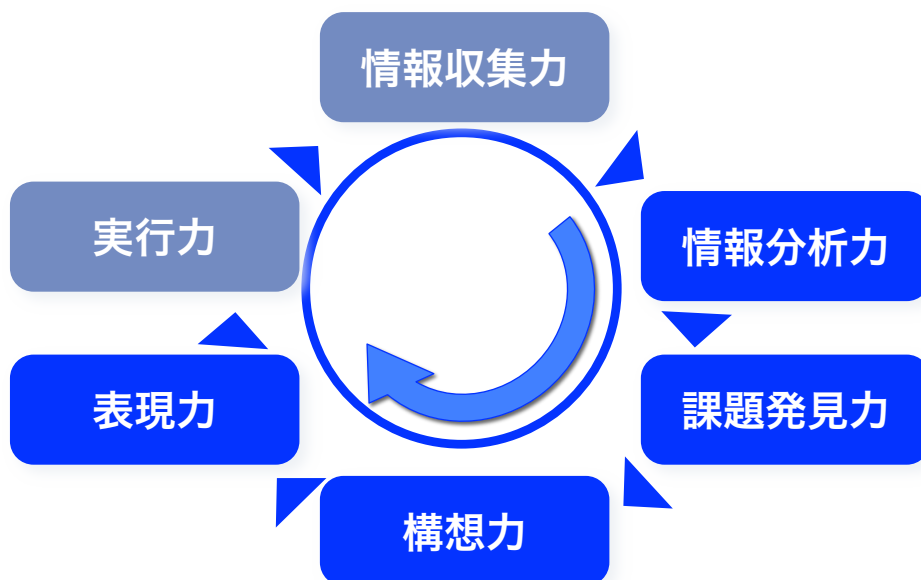
- PROGテストの強み…「リテラシー」の観点それ自体が「知識活用力」「課題解決力」のプロセスであると同時に、教育プログラム改革の指標となり得る…「このサイクルをまわす科目をつくる」

事例① リテラシーを育成する入門演習



- 各ゼミ5名前後のグループになって、テーマにもとづいて、調査→分析→課題発見→構想→プレゼンを実施。プレゼン大会は、1年間に2回実施。投票で順位を決定。
- 春学期は、グループごとに「大人・恋愛・結婚・就職・仕事・家族」というテーマから選択。
- 毎年、徐々にリテラシー・サイクルを意識した内容へと発展。

事例② リテラシーと文章表現能力



「文章を書く」とは、「知識を活用する」こと

公務員試験が問う日本語リテラシー

福岡県警小論文試験より

平成20年度《第1回》…【時間】60分【字数】1050字以内

「現在の福岡県内の治安情勢を踏まえ、県民が福岡県警察に期待していることは何か、警察官となった場合、県民の期待にどのように応えていくかについて、あなたの考えを具体的に述べなさい。」

【出題のポイント】

- ① 治安情勢や県警の課題等の情報を知っているか（「**情報収集力**」）
- ② それらの情報を理解・分析できているかどうか（「**情報分析力**」）
- ③ そうした情報をふまえた上で、当事者意識を持った課題解決策を提案できるかどうか（「**課題発見力**」「**構想力**」）
- ④ 自分の考えを1000字程度で論理的に表現できるかどうか（「**表現力**」）

文章表現科目（教養特殊講義5・6）の授業設計

- 4名の教員（すべて文章表現の非専門家）で担当。
- ねらい…「読む・書く力と考える力の習得を目指す。与えられた資料を分析し、課題を発見・設定し、論理的な文章を構想でき、適切な日本語で自分の意見を主張できる、というリテラシー（課題解決力）の習得をめざす」
- 授業方法…**3コマを1ユニット化し、「情報分析→課題発見→構想→表現」のライティング・プロセスを段階を追って習得させる。**
- 授業方法…グループワークを取り入れ、主体的・能動的な学習スタイルとを育成し、深い知識理解や知識定着をめざす。
- 学生の文章を複数の教員がバラつきなしに評価するために、ルーブリックを作成して評価。

→近刊「大学生のための日本語リテラシー（仮題）」（ひつじ書房）において事例紹介予定。

文章表現科目…コマのユニット化とプロセス・ライティング

【授業計画例…2012年度秋学期】…4名の担当教員が1ユニットずつ教材を作成

☆第1ユニット（コーチング）～様々な資料をもとに課題に対して自分なりの解決策を提示できる。

第1回 資料分析1 コーチングに関する理論的・歴史的背景を知る。

第2回 資料分析2 コーチングに関する課題を知る。

第3回 構想&表現 コーチングに関して、自分の意見を構想し、文章を作成する。

☆第2ユニット（日本のエネルギー政策）～グラフ等のデータを読み取り自分の意見を構築できる

第1回 資料分析1 日本のエネルギー政策の現状と環境と経済成長の矛盾を理解する。

第2回 資料分析2 各国のエネルギー政策について理解する。

第3回 構想&表現 日本の今後のエネルギー政策について自分の意見をまとめる。

☆第3ユニット（新卒一括採用）～反対側の主張を意識しながら自分の意見を構築できる。

第1回 資料分析1 新卒一括採用に関するグラフ等を読み取る。

第2回 資料分析2 新卒一括採用の是非に関する資料を読み取る。

第3回 構想&表現 新卒一括採用の是非について、自分の意見をまとめ、文章を作成する。

☆第4ユニット（商店街の現代的意義）～社会的な問題について自分なりの意見を主張する。

第1回 資料分析1 商店街衰退の背景を理解する。

第2回 資料分析2 活性化に成功している商店街の事例を知る。

第3回 構想&表現 現代社会における商店街の意義について自分の意見を述べる。

事例③ 実習科目～コンピテンシーの育成



- 社会実習1 リスクマネジメント・コース（警察官育成プログラム）向け科目
- ねらい…社会性（自主性、チームワーク）、規律ある行動の育成
- 消防士による救命救急講習、規律訓練
- 山口徳地青少年自然の家での宿泊研修（チーム作り研修）

③-1 山口徳地青少年自然の家TAP研修

- ・ アメリカで始まったアドベンチャー教育(Project Adventure; PA)をベースに、専門の施設の中で身体を使ってチームワーク、自主性、課題解決力を育成するプログラム。
- ・ 6月に産業界GP学修評価グループ参加校で共同実施予定。

評価項目(例)

【フルバリュー・コントラクト】(PAのキーワード)
 ・ お互いの努力を最大限に評価する。
 ・ 自分を含めたメンバーをけなしたり、軽んじたりしない。

【チャレンジ・バイ・チョイス】
 ・ 自分自身で挑戦レベルとその方法を決定する。
 ・ グループの仲間にとどのような方法で協力できるのかを考え、行動する。

【体験学習サイクル】
 ・ 課題解決につながる提案や行動ができる。
 ・ 体験学習の成果を大学生活で活用できる。

コンピテンシー

対人基礎力
 親和力・協働力・統率力

対自己基礎力
 感情制御力・自信創出力・
 行動持続力

対課題基礎力
 課題発見力・計画立案力・
 実践力

- 評価項目のルーブリックをもとに、自己評価、SAと教員による評価。

事例④ FD(オフキャンパス研修)

3/22~23@日本文理大由布院研修所



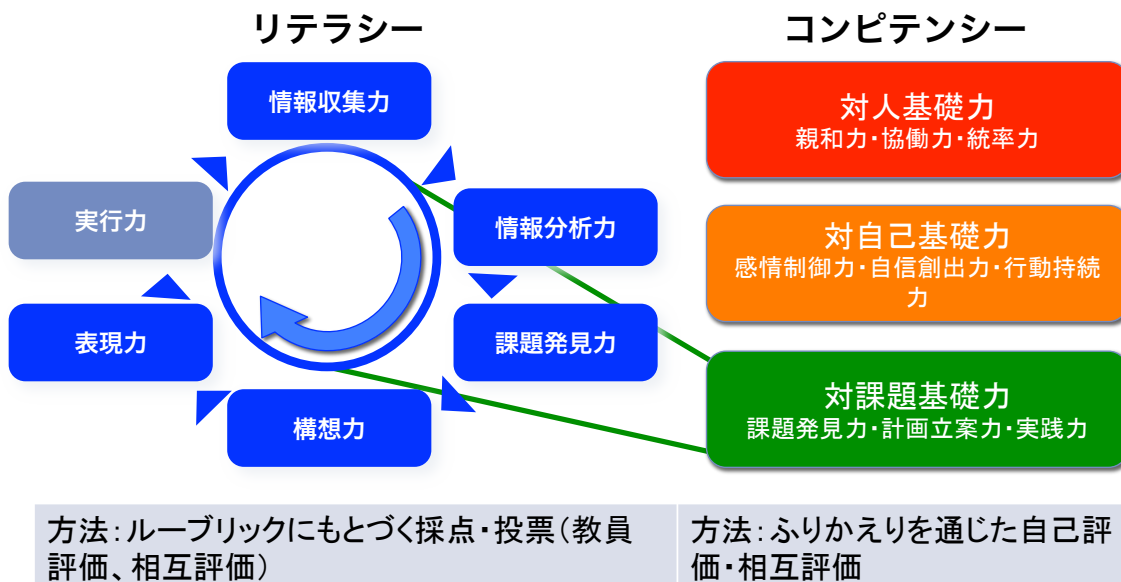
④-1 オフキャンパス研修プログラム

- ・ 入門演習担当教員とSA学生が中心となって参加
- ・ テーマ：「結婚」（入門演習テーマの一つ）
- ・ 9月に産業界GP学修評価グループ参加校で共同実施予定

	テーマ	ねらい	方法
1stセッション (150min)	【情報分析】	与えられた資料を読解・分析し、課題を発見する。	ジグソー学習法
2ndセッション (120min)	【課題発見】・ 【構想】	解決(非婚化減少)のための方法を考える。	ブレインストーミング、KJ法
3rdセッション (120min)	【構想】・ 【情報収集】	課題を解決するための方法をまとめる。関連する情報を自分たちで探す。	プレゼン準備
4thセッション (90min)	【表現】	問題を解決するための方法を提案する。	プレゼンテーション
5thセッション (75min)	「評価①」	プレゼンの到達レベルを評価する	投票・自己評価、相互評価
6thセッション (60min)	「評価②」	ふりかえり(自己評価、相互評価)	ワールドカフェ

④-2 オフキャンパス研修の評価方法

プログラムのねらい…現実の複雑な課題に対して、様々な情報をふまえつつ、集団の中で協同しながら、当事者意識を持って解決策を構想する。その内容を他者に伝え、賛同・共感を得ることで、現実社会の変革を目指す。



事例⑤ 専門科目を通じたリテラシーの育成

専門教育を通じて育成されるスキル（“ジェネリック・スキルは専門分野から脱文脈化して習得されるわけではない”）

例えば「法律学の答案を作成するプロセスとは…」

- ① 条文、判例、学説の収集（従来の法学教育では「暗記する」こと）
- ② 課題（事例）に対する事実関係の認定
- ③ 法的論点（法的問題点）の明確化
- ④ 判例・学説の批判的検討
- ⑤ 反対の立場への反論も含めた説得力ある論理構成

「基礎セミナー」（2015年開講予定…2年次配当必修科目）

- ・ 4～5名の教員で担当、1クラス40名前後。
- ・ 法律問題につながる新聞記事や文献等の資料を使って、対立する2つの主張を理解し、それらの根拠を法的概念と結びつけつつ論ずる。
（例：情報公開と知る権利、幸福追求権と公共の福祉等）

まとめ

1. ジェネリック・スキル（リテラシー&コンピテンシー）は、知識基盤社会を生きるためのキー・コンピテンシーでもあり、現在の日本の産業界が大学生に求める能力でもある。この能力を大学教育を通じて「意識的に」育成する必要がある。
2. 本学部では、学生のリテラシー（課題解決力）は大学3年間で伸びた学生もいれば、下がった学生もいる。その要因は明らかではないが、教育成果と関係があると捉えるべきである。
3. 本学部では、PROGテストを形成的アセスメントとして捉え、学生のリテラシー向上のために、あらゆる点の再検討（GPA、DP、カリキュラム、科目内容）を行っている。
4. 本学部では、PROGテストのリテラシーとコンピテンシーの観点を達成目標や評価基準として、いくつかの科目に組み込みつつある。今後は（カリキュラム改革を行い）専門教育によってジェネリック・スキルを育成する科目を導入する。